

保護者が幼稚園・保育所に期待すること

今、保護者は、幼稚園や保育所にどのようなことを期待しているのでしょうか？そして、保護者のしつけや教育への意識はどのように変化しているのでしょうか？ Benesse教育研究開発センターでは、2008年9月に幼稚園と保育所に通っている子どもをもつ保護者を対象に、家庭での子育て生活の実態、しつけや教育に関する意識について調査を行いました。ここでは、幼稚園・保育所に期待されることや、子育ての悩み、しつけに関する意識などを取り上げ、保護者の意識の変化を見ていきましょう。

今回ご紹介するデータの調査概要

調査名 第3回 子育て生活基本調査(幼児版)
調査テーマ 幼稚園児・保育園児をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識をとらえる
調査方法 幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査
調査時期 第2回調査2003年9月～10月／第3回調査2008年9月～10月
調査対象 首都圏(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者のうち、首都圏の母親(2003年:3,477名、2008年:3,069名)を中心に分析。
【サンプル数】

	年少児	年中児	年長児	不明
2003年(首都圏・母親3477名)	752名	1,332名	1,370名	23名
2008年(首都圏・母親3069名)	767名	1,115名	1,141名	46名

※2003年と2008年の選択項目には、一部表記上の変更があります。

調査名 第1回幼児教育・保育についての基本調査(保育所編)
調査テーマ 2008年3月告示の保育所保育指針への保育所の対応と、保育所における保育の実態・課題を明らかにし、改善の方向性を探ること
調査方法 郵送法(自記式アンケートを郵送により配布、回収)
調査時期 2008年9～10月
調査対象 全国の園児数30人以上(一部、園児数不明の園も含む)の認可保育所の所長・施設長(園長)、副所長・副施設長(園長)、主任 ※乳児のみの保育所は除く
【サンプル数】

	合計	公立	私立
発送数	12,000件	6,000件	6,000件
有効回答数	3,018件	1,584件	1,434件
回収率	25.2%	26.4%	23.9%

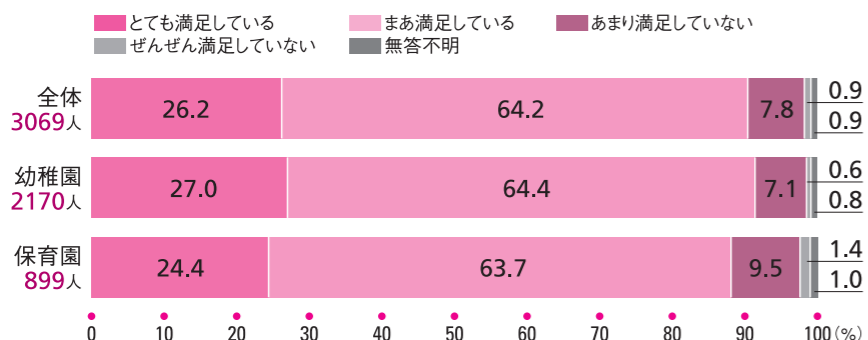
・12ページ図4は「第1回幼児教育・保育についての基本調査(保育所編)」、そのほかは「第3回子育て生活基本調査(幼児版)」より

現在通っている園への満足度

幼稚園・保育所ともに約9割が「満足している」

Q お子様が行われている園の取り組みや指導にどのくらい満足していますか

図1 現在通っている園への満足度(2008年首都圏・就園状況別)



注1 園への満足度は2008年の調査で初めて加えた項目のため、経年で比較することはできない。

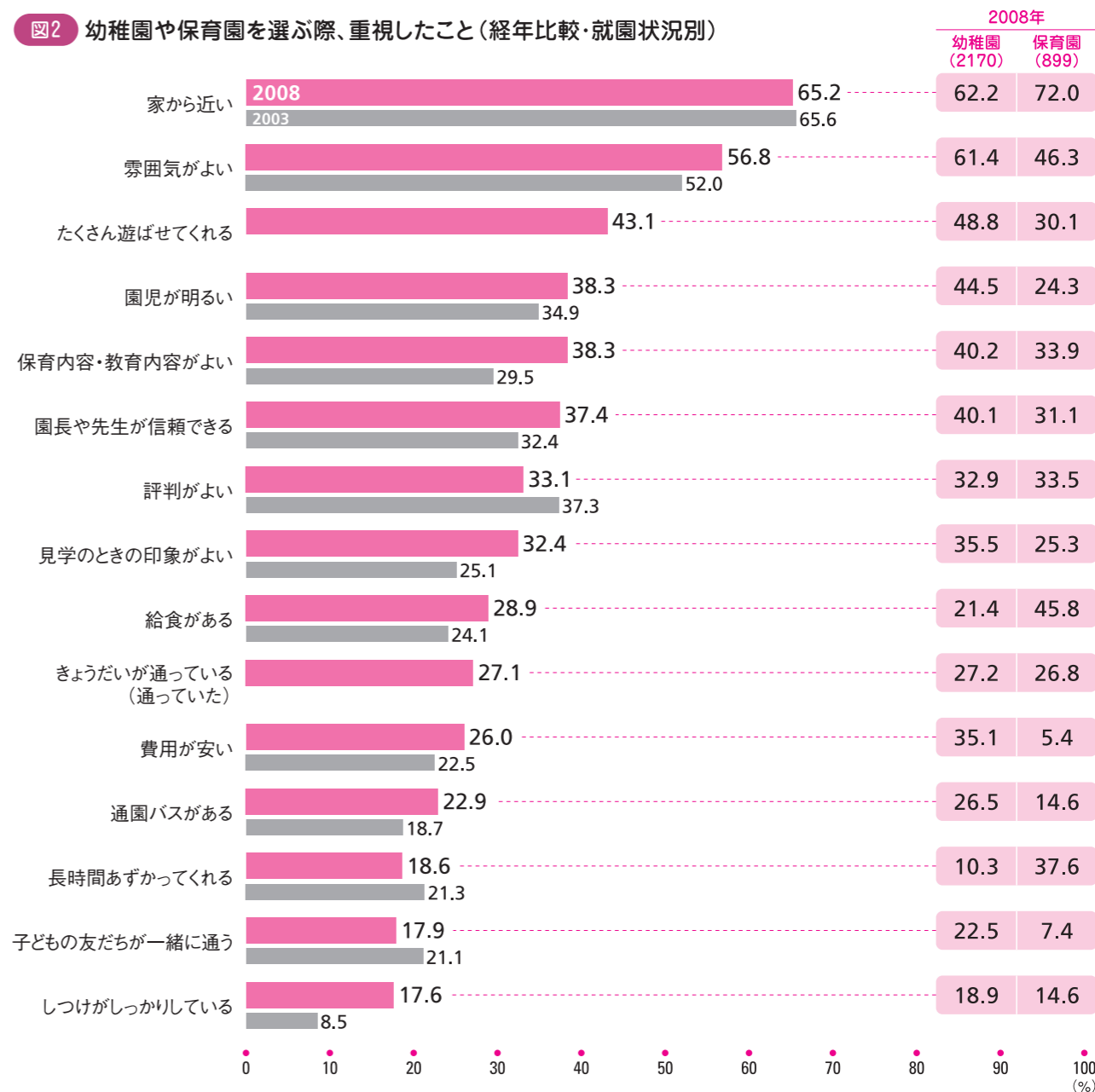
★今回の調査では幼稚園または保育所に通う3歳～6歳の子どもをもつ母親に現在の園への満足度を尋ねました。その結果、「とても満足している」「まあ満足している」を合わせると、約9割の母親が、現在子どもが行っている園に満足していることがわかりました。日ごろの取り組みが評価された結果と言えるのではないのでしょうか。

園選びで重視したこと

保育・教育内容を自分で確かめて選ぶ母親が増加

Q お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときにどのようなことを重視しましたか

図2 幼稚園や保育園を選ぶ際、重視したこと(経年比較・就園状況別)



注1 複数回答。「その他」を含む23項目のうち、15項目を図示した。

注2 「お子様の通う幼稚園や保育園を選ぶときに、どの園にするかを考えましたか」の質問で、「よく考えた」「まあ考えた」と回答した人のみ分析した。

注3 2003年の数値がない項目は2008年の調査より新たに追加された項目。

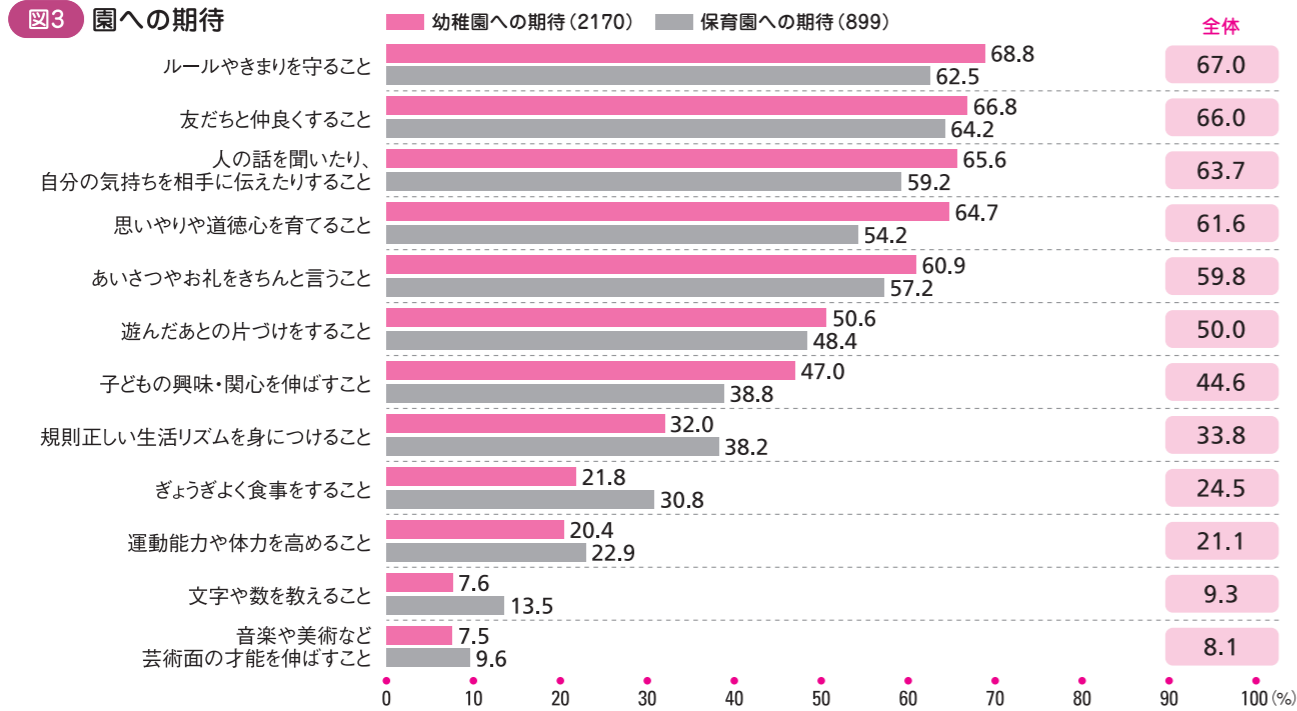
★幼稚園や保育園を選ぶときに重視したことを尋ねたところ、2003年に比べて全般的に項目の選択率が増えていることが特徴です。特に増加幅が大きい項目は「保育内容・教育内容が良い」「園長や先生が信頼できる」「見学のときの印象が良い」「しつけがしっかりしている」

です。自分の目で保育・教育内容や先生の印象を確かめて園を選ぶ保護者が、増えてきたと言えるのではないのでしょうか。

幼稚園・保育所への期待

幼稚園へは思いやりを育てること、保育所へは生活習慣を身につけることを期待

Q あなたは、幼稚園・保育園に対して、次のようなしつけや教育をどのくらい期待しますか。

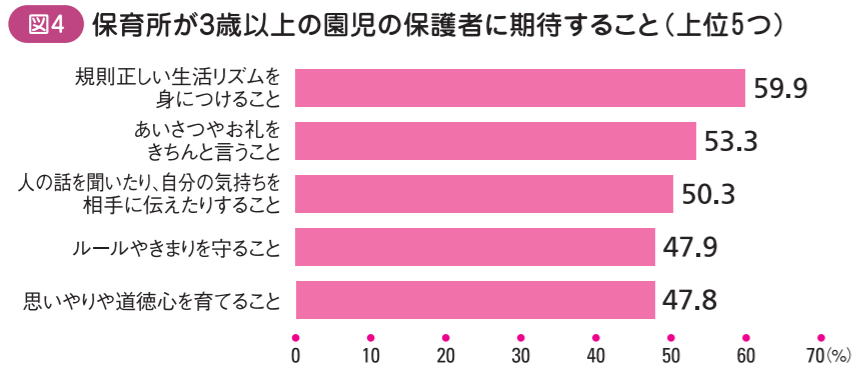


注 「とても期待する」の%

★幼稚園や保育所に対してどのようなしつけや教育を期待するかと尋ねたところ、上位3つの項目は幼稚園・保育所ともに「ルールやきまりを守ること」「友だちと仲良くすること」「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」となりました。就園先別で比較

すると、幼稚園の比率が高いのは「思いやりや道徳心を育てること」「子どもの興味・関心を伸ばすこと」などの項目で、保育所の比率が高いのは「ぎょうぎよく食事をすること」「規則正しい生活リズムを身につけること」などでした。

Q 保育所向け あなたは、3歳以上の園児の保護者に対して、次のようなしつけや教育をどのくらい期待しますか。



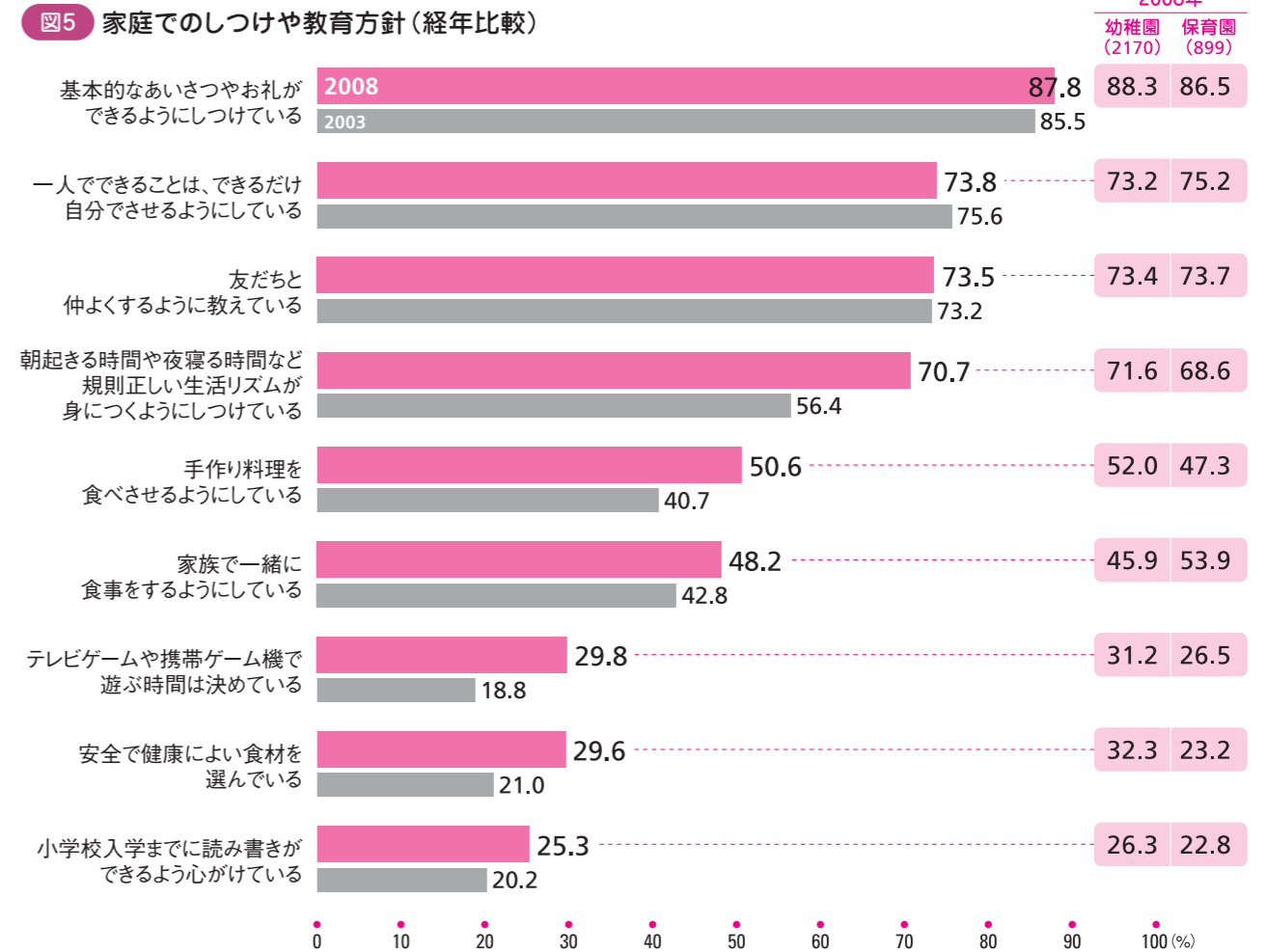
注1 基本調査(幼稚園編)にはない項目のため、幼稚園を比較することはできない。
注2 「とてもあてはまる」の割合

★一方、ベネッセ次世代育成研究所が2008年9・10月に実施した「第1回幼児教育・保育についての基本調査(保育所編)」(調査概要は10ページを参照)において、保育所から3歳以上の園児の保護者に期待することは、上から順に「規則正しい生活リズムを身につけること」(59.9%)「あいさつやお礼をきちんと言うこと」(53.3%)「人の話を聞いたり、自分の気持ちを相手に伝えたりすること」(50.3%)でした。

家庭でのしつけや教育方針

家庭でのしつけや教育を心がける母親が増えている

Q あなたのご家庭ではお子様を育てていく上で、とくに心がけていることがありますか。



注 複数回答。「その他」を含む19項目のうち、9項目を図示した。

★家庭でのしつけや教育方針について、5年前に比べて多くの項目で選択率が上昇していることがわかりました。特に「朝起きる時間や夜寝る時間など規則正しい生活リズムが身につくようにしている」「テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ時間は決めている」「手作り料理を

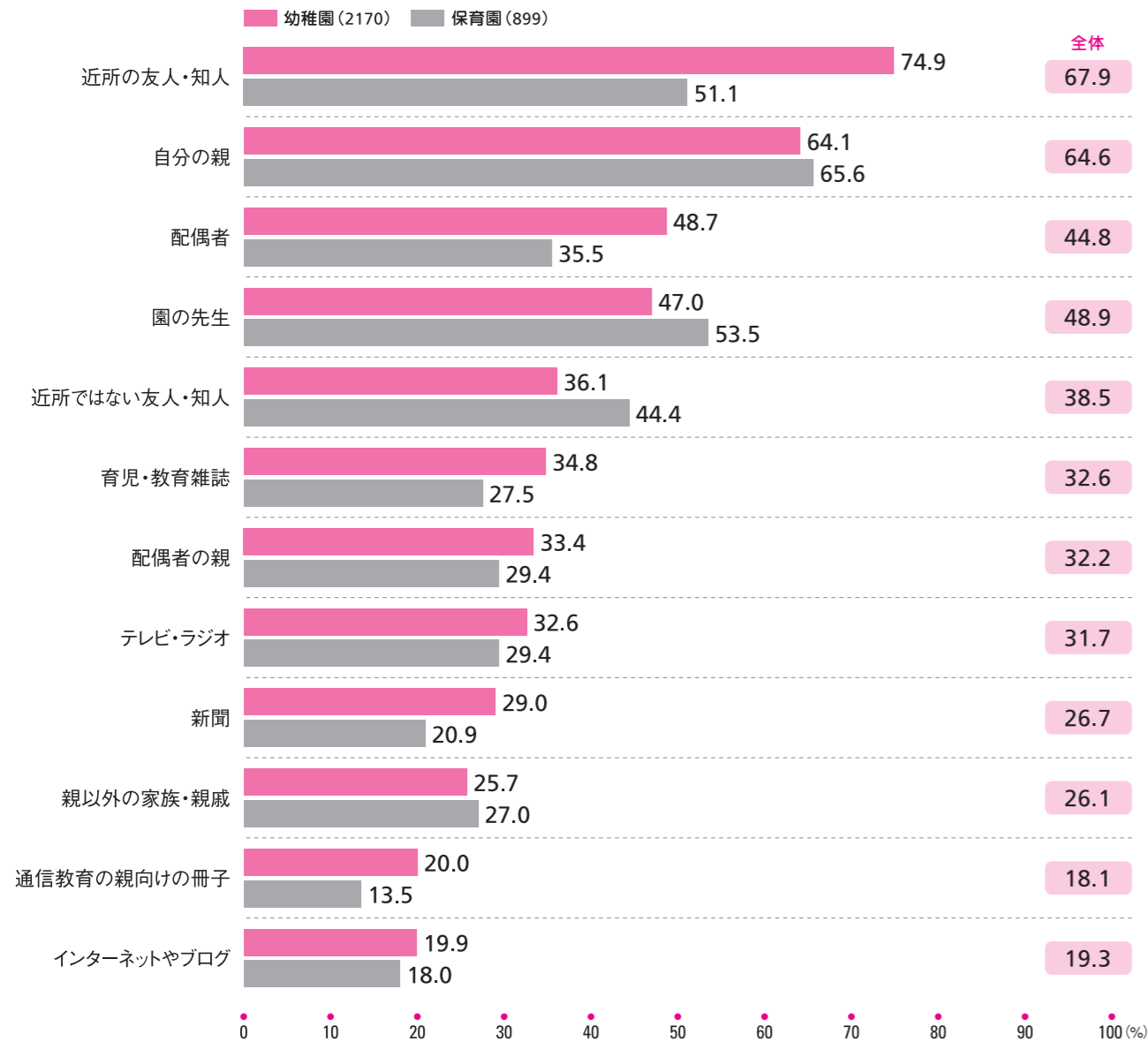
食べさせるようにしている」は、5年前より10ポイント程度増えています。また「基本的なあいさつやお礼」「一人でできることは、できるだけ自分で」「友だちと仲よく」といった項目は5年前と同様に選択率が高いことがわかりました。

しつけや教育の情報源

幼稚園の母親は近所の友人から、保育所の母親は園の先生から情報を得ている

Q 現在、あなたは「お子様のしつけや教育」についての情報をどこから(だれから)得ていますか。

図6 しつけや教育の情報源(就園状況別)



注 複数回答。「その他」を含む21項目のうち、12項目を图示した。

★子育ての情報源について、子どもの就園先別にみると、幼稚園に通う子どもをもつ母親は、多くの項目で選択率が高い傾向がみられました。幼稚園の母親はより多方面からの情報源に接しているようです。中でも「近所の友人・知人」は4人に3人が選択しており、「自分の親」「配

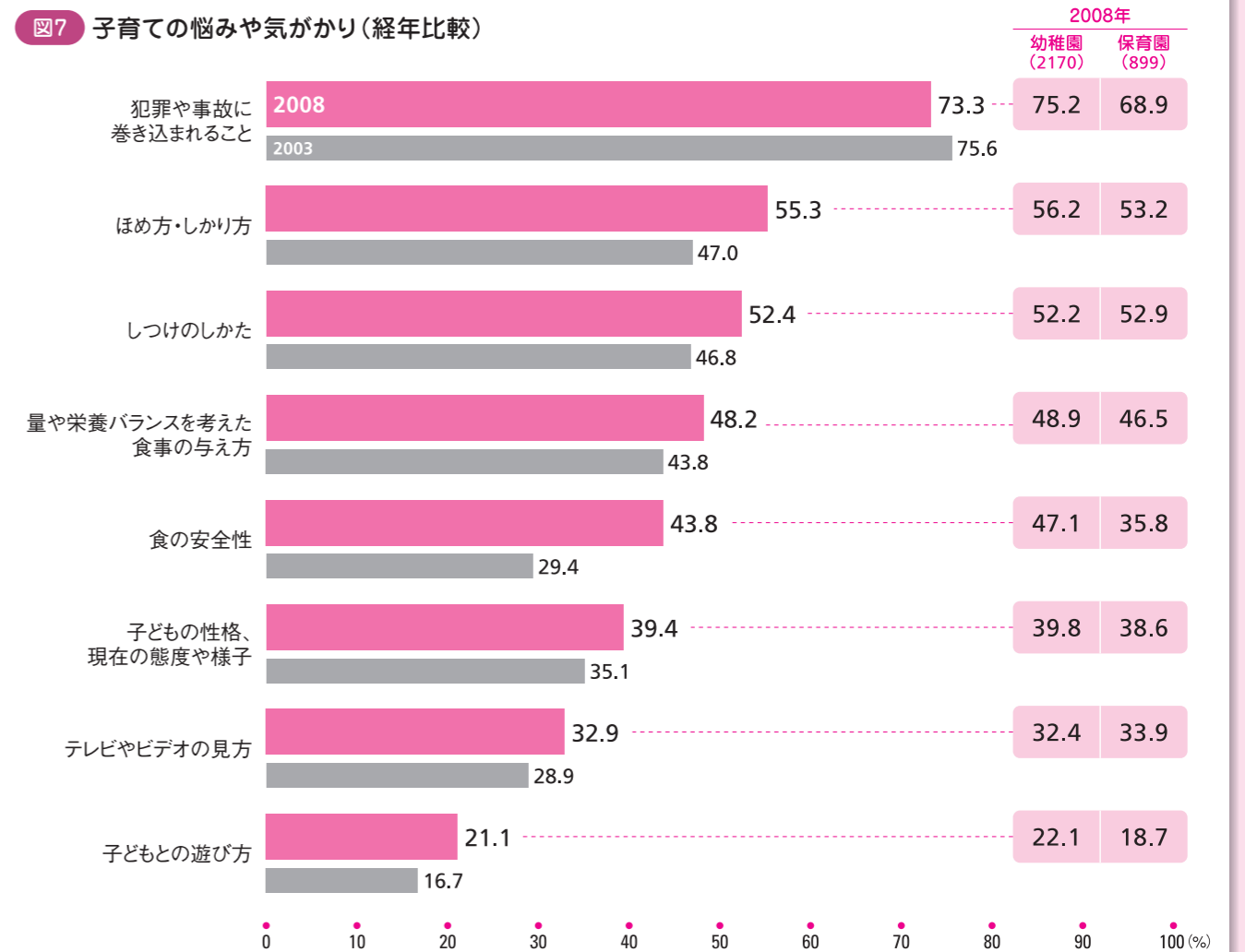
偶者」と続きます。一方、保育所の母親は「自分の親」(65.6%)がもっとも多く、「園の先生」「近所の友人・知人」と続きます。幼稚園と保育所の母親では子育てに関する情報源が異なることがわかりました。

子育ての悩みや気がかり

「食の安全性」への不安が高まっている

Q お子様やあなたご自身のことについて、次のような「悩みや気がかり」がありますか。

図7 子育ての悩みや気がかり(経年比較)



注1 複数回答。「その他」を含む45項目のうち、8項目を图示した。

★今回の調査では、5年前と比べて「食の安全性」を選択する割合が14.4ポイントも増加していました。近年の食に関するさまざまな報道を受けて、食に対する不安が高まっているようです。悩みや気がかりの中でもっとも多いのは、5年前と同様に「犯罪や事故に巻き込まれ

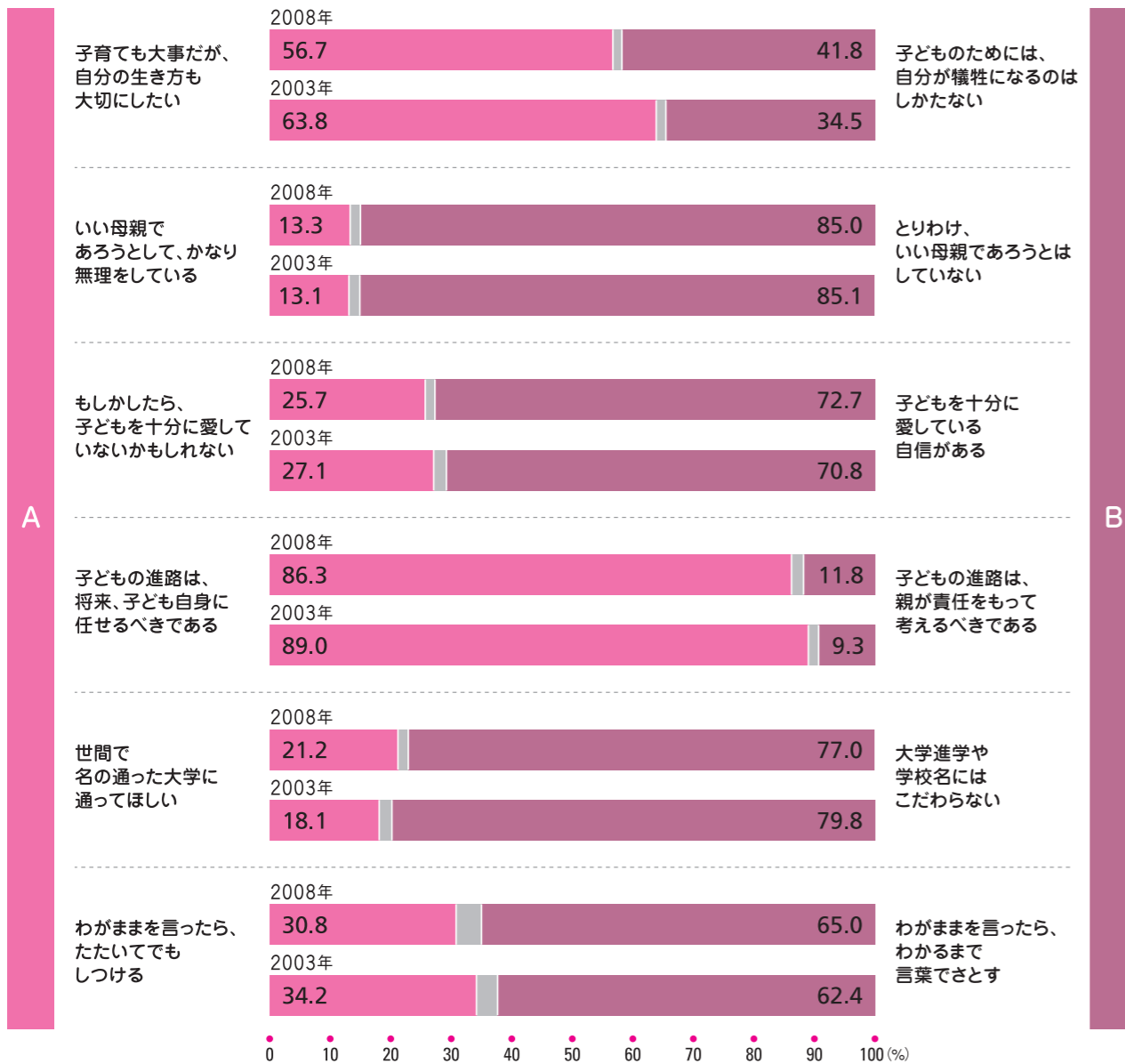
ること」で7割以上の方が選択しています。また、「ほめ方・しかり方」「しつけのしかた」は、ともに5ポイント以上増加していました。上位3項目は5年前の調査でも選択率が高いことから、幼児をもつ母親にとって変わらない悩みや気がかりと言えます。

子育てやしつけに関する意識

「子育ても大事だが、自分の生き方も大切にしたい」が減少

Q AとBの子育てに関する2つの意見のうち、あなたのお気持ちに近いほうはどちらですか。

図8 子育てやしつけに関する意識（経年比較）



注1 無答不明（グレーの部分）があるため、AとBの数値を合計しても100%にはならない。
注2 10項目のうち、6項目を図示した。

★2003年に比べて「子育ても大事だが自分の生き方も大切にしたい」と回答した母親が約7ポイント減少し、自分の生き方より子育てのほうを優先する母親が増えていることがうかがえました。また、「わがままを言ったら、

わかるまで言葉でさすとす」(+2.6ポイント)「世間で名の通った大学に通ってほしい」(+3.1ポイント)と微増しており、全体的に子育てや子どもの教育に熱心な母親が増えていることがわかりました。

全国の保育現場からの声

私が考える 幼児教育のこれから

幼児教育の現場は今、大きな変化に直面しています。少子化、共働きの増加、保護者の価値観の多様化、地域の教育力の低下などを受け、幼稚園・保育所に求められる役割はますます大きくなっています。また、この4月からは改訂幼稚園教育要領、改定保育所保育指針もいよいよ実施されました。さまざまな状況変化の中で、今後どのような幼児教育・保育が実現されるといえるのでしょうか？ 幼児教育に携わるさまざまな立場のかたに、お考えをうかがいました。

※掲載の順序は50音順です

公立 ● 幼稚園

東京都墨田区 墨田区立緑幼稚園

幼児、保護者、そして教師が 温かな人間関係の中で 生き方を学び合う



園長 荒木尚子

①人間関係が希薄になり、引きこもりやニートなどの問題を抱える現代、生涯教育の出発点にある幼児期の教育にこそ、しっかりとした人生の足固めとしての役割が求められています。生涯「夢」をもち「生きること」への喜びを素直に感じ取れる人間、さまざまな形で勤労意欲をもち、社会に貢献しようとする人間が大切だと考えます。どんな逆境に遭遇しても、社会の中で、自らの力で切り抜け、乗り越え、前進しようとする「力」こそ「人間力」として大切だと思います。そのためには幼児期に多様な体験を通して、主体的に自分自身の力を発揮し、友だちと協同の喜びを実感

設問

- ① 幼児を取り巻く環境の変化や、幼児期の教育・保育の重要性がますます高まっていることを踏まえ、今後どのような幼児教育、保育が実現されたらよいとお考えになりますか？
- ② ①の実現に向けて、課題は何であるとのお考えになりますか？
- ③ 課題の解決に向けた、取り組みのポイントは何かとお考えになりますか？

※①～③全体をテーマとしてご執筆いただいた原稿は番号を記載していません

し、自己肯定感もてる幼児の育成を実現することだと考えます。
②人とかかわりが十分できない幼児や保護者が増えてきている現状では、幼児期に、一人ひとりが自信をもち、豊かな想像力と表現力を身につけていくことが困難な面もあります。将来、社会に役立つ人間として主体的に取り組む姿勢とコミュニケーション能力をはぐくむことが望まれます。
③そのためには、幼稚園という安心できる居心地のよい環境で、温かい人間関係の中で生き方を学ぶことが必要です。さらに、さまざまな年齢の人々とかかわり、自分の世界を広げていく経験も大切です。核家族化の中、保護者もほかの人々とかかわり方に迷ったり、敬遠したりする現状を考えると、幼児だけでなく保護者も共に体験を通して育成していくことが必要です。まずは幼児と保護者、教師と幼児、教師と保護者、幼児同士が互いを信頼し合いながらかかわりを深められる幼稚園経営を創造していくことだと考えます。そのうえで具体的な視点としては、一人ひとりに応じて適切に援助ができる教師の育成が大切です。また、幼稚園教育の重要性を広く社会に伝えていくための明確な自己評価を実施し、公表していくことも重要であると考えます。